

# 令和5年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 17	公益目的事業 19
主査名	長田哲平 宇都宮大学准教授	
研究テーマ	地方都市の中心市街地における荷捌き駐車施設の配置に関する研究**	
<b>研究の経過（4月～9月）：</b> <p>過剰に存在する路外駐車施設の集約や荷捌き駐車場としての活用など、荷捌き活動に着目した駐車施設の地域ルールを検討できるように、地方都市の中心市街地の荷捌き駐車の実態と駐車施設の利用実態の関係を明らかにすることを目的に研究を進めている。</p> <p>研究では、次の2点のうち4月～9月は②を重点的におこなってきた。</p> <p>① 地方都市の中心市街地ならびに荷捌き駐車場の実態、駐車場条例や地域ルールなどの実態整理 ② 地方都市である栃木県宇都宮市を対象に駐車施設の利用実態と荷捌き活動の実態の比較</p> <p>これまでに、2回の研究会（6月7日、9月15日）をハイブリッドで開催し、プロジェクトメンバーとディスカッションを重ねてきた。</p> <p>第1回目の研究会では、プロジェクト申請内容、地方都市として事例にあげる栃木県宇都宮市で進められている次世代型路面電車プロジェクトの紹介ならびに宇都宮市で取り入れられる付置義務緩和政策などの施策を紹介した。現計画などには物流の視点が抜けていることや、宇都宮が特殊な交通特性である可能性があることから、他都市と比較を行うこととした。</p> <p>第2回目の研究会では、他都市の比較において、LRTが導入されている富山市とBRTが導入されている新潟市の各種計画や道路計画、交通規制状況などの比較を行った。その際に、各都市の交通政策において、駐車政策が弱いことがわかった。また本研究プロジェクトは荷捌き施設（駐車場）をターゲットにしているが、物流施設まで広げた方が都市との関係などを整理しやすいとの方向性を見出した。また、第1回目の補足として、宇都宮都市圏の交通特性を整理した結果、空き家や空地の広がり具合など時系列的な変化も着目した方が良いという結論に至った。</p> <b>下期へ向けて（課題等）：</b> <p>第1回、第2回を受けて、対象とする宇都宮市について、空き家などの時系列的な変化を分析すること。また、富山市と新潟市を比較対象の都市として取り上げたが、他の路面電車が導入されている都市についても物流施設、物流政策などを12月に開催する第3回研究会に向けて整理したい。</p>		